

大阪府保育士会だより



ほほえみ

平成28年12月1日 第107号

大阪府社会福祉協議会
保育部会・保育士会

大阪市中央区中寺1-1-54
TEL 06-6762-9001



ともにあゆむ未来へ

第50回 全国保育士会研究大会

第50回全国保育士会研究大会が11月17、18日の両日、神戸ポートピアホテル他で「ともにあゆむ未来へ」一人ひとりが大切に育てら

れる社会の実現をめざして「を」テーマに開催され、全国から約1,700人が参加しました。

大会初日の記念講演では、教育評論家・法政大学教授の尾木直樹氏が登壇。「子どもの心をつかむ〜未来を担う子どもたちのために〜」と題して、昨今の子育ての状況を話されました。

尾木氏は、児童虐待件数の増加の要因の一つとして、「しつけ=叱ること」と勘違いしている母親が多いことを指摘。また、母親自身も叱ることに嫌悪感を抱き、子育てに焦りを感じており、その背景には社会的な圧力があるのではないかと言及されました。

「昔は、子育ては社会的な

営みで、母親を育てる地域の網目があったが、今は交通機関やレストランなどで子どもが泣いたり騒ぐと『母親ならちゃんと注意しなさい』という圧力を感じる社会になってしまった。本当にやさしい子どもに育てるためには、道理を教えること、それができるようになるまで何度も繰り返し伝えていくこと、これが『しつけ』です」と強調されました。

また、全国保育士会倫理綱領にもある「子どもと子育てにやさしい社会の実現」のために、保育士は『あなただけが悪くない』と母親の子育てのつらさを受け止め、健全な親子の愛着が形成されるよう見守る存在であってほしいと参加者にエールを送られました。

2日目は9つの分科会が開かれ、和光認定こども園(高槻市)の呉屋奈都子氏と黒田千晶氏が「園での心身の糧〜生きる力を育める」食の取り組みを中心に、について発表、熱心に意見交換が行われました。

次回開催地は富山県です。(事務局)

保育士の専門性を高める連続研修会

2日目
3日目

保育士の専門性を高める連続研修会が7月29日(2日目)、8月5日(3日目)にTKP大阪心斎橋カンファレンスセンター他で開かれました。テーマと講師、主な内容な次の通り。(1日目は第106号に掲載)

2日目

【第1部】

「発達障がいのある保護者と子育て」講師/花園大学社会福祉学部臨床心理学科教授・橋本和明氏



昔の子育ては、社会全体が親の代わりをすることで多

様性があり、子育ての苦労が楽しみや喜びへと変わり、親として成長していくことができましたが、最近では、核家族化の中で不安と孤独を抱え、逆境以外の何もでもないという状況です。このような中で、発達障がいをもつ保護者が子育てをする際のしんどさを、援助者は理解することにも、保護者の発達障がいの特性を把握し、言動や思考のパ

ターンを見つげ出すことで関わりのコツが見えてきます。

子育てには、色々な育て方があると思います。多様性を認めることが、発達障がいの保護者を支援する鍵となります。

【第2部】

「保育園における子どもの仲間づくり」講師/玉川大学教育学部脳科学研究所教授・岩田恵子氏



仲間づくりのプロセスは、「個」を具体的に

「集団」(個をとりに「社会的関係」・「状況」(個と社会的関係の相互関係)の3つの視点を大切にしながら考えます。

模倣と同調を繰り返し、「わたしたちって」なかにし」という仲間関係を維持し、固定化した仲間関係の中で生じる意見の対立と調整を経て、互いの共通意図の発見へとプロセスが展開していきます。

このプロセスを経た子どもたちは、仲間関係とは社会的不確実性をふくんでいることを認め、自分の予想通りでなくても相手に「信頼」をもち続けることができるようになります。

(泉南市 S・H)

3日目

【第1部】

「陸前高田市の復興状況」といま、そしてこれからのまちづくり」講師/若手県陸前高田市市長・戸羽太氏



戸羽市長は、はじめに「5年前の東日本大震災の被害を受けた当事者として思う」(2ページに続く)

ことは、もう二度と他の方々に、最愛の人を失うというような経験をしてほしいくない、だからこそ『備え』について考え直してほしい」と訴えました。

そして、「もしもの時、家族で集合場所を決めているか、常備食、飲料水を少なくとも3日分は確保しているか?できていなければ、後悔しないために今すぐ実行してほしい。また、保育園で子どもたちを預かる先生方には、迷ったり、慌てたり、泣いたりしてられない場面が待ち受けます。どう動いてすべての子どもを守るのか、日々の備えや訓練、職員の意識統一などを点検してもらいたい」と結ばれました。

「子どもを災害から守るため」講師／陸前高田市立高田保育所・前所長・佐々木利恵子氏、陸前高田市立小友保育所・所長・藤井貴美氏

突然の大きな揺れ、巨大な泥水の壁が園舎を含めた町全体を飲み込んでいき、子どもたちには見せたくなかった現実が目の前に広が

りました。震災後に見られた子どもの姿は、コップ一杯の水を飲めるようになるまで一週間かかる子、トイレの水が渦巻くのを怖がり、自分で流せるようにならないまで半年かかる子などさまざまでした。被災後の子どもの心の変化に気付くには日頃のようなすを理解しておくことが重要だと改めて感じます。

災害ほどの時間に、どんな形で起こるかわかりません。対応するのが担任とは限りません。地域力を借りながら、事前の備え・心構え・職員一人ひとりの意識啓蒙が大事です。

また、災害弱者になる子どもたちですが、小さくても年齢なりの自助の力を身に付けることも日常の保育の課題です。

【第2部】

「保育園での重大事故からリスクマネジメントを考える」講師／弁護士・社会福祉士・寺町東子氏

これまで、保育施設における命にかかわるさまざまな重大事故の事例を見てきましたが、すべての事故に



共通するのは、見えていなかったことです。

ゼロリスクはありませんし、すべてのリスクに100%の労力を投入するのは難しいのが現実です。お金と人材が限られている中で、優先順位を見極めることは重要です。

「重大事故」を起こさないためには、リスク・マネジメントの基本である、①リスクの特定②リスクの評価(影響度・発生頻度)③リスクへの対策(発生を抑える、被害を最小限に食い止める)④対策の再評価⑤リスク・コミュニケーション、が実践できているかです。職員会議などを活用して「小さな事故」から共有し、ヒヤリハット、アクシデントの事実関係・原因(ソフト・ハードウェア、環境、人間)を分析し、職員同士で話し改善策を共有して保育の改善へと繋げる。やはり職員間の連携が不可欠です。

(守口市 T・Y)



49 支援者としての子育シ

一緒に体を動かすと、心も動く!

楽しみながら相談してもらえ関係へ

堺市 くらやま保育園

くらやま保育園は、堺市美原区の幼保連携型認定こども園です。ひっそりとした住宅地と田んぼが混在する環境です。平成24年に認可保育園として創設、27年度から幼保連携型認定こども園として新たなスタートを切りました。

当園では、創設時から毎月、地域子育て支援事業として「どんぐり広場」を3名の保育教諭が専属で担当しています。

「どんぐり広場」では、今春、専門家を頼りベビィヨガ教室を開催し、たくさんママが参加してくれました。このような体を動かすイベントのあとには、講師による座学のことについて、保護者からの



悩み相談件数が増加する傾向にあります。このことから、運動によって信頼関係の構築が早まる効果を期待し、手作りおもちゃのイベント前にも親子でストレッチをするようにしました。

また、「ころころ広場」では、地域の農家にアドバイスをいただきながら菜園活動を行っていて、種まきや苗植えを体験してもらいます。収穫した野菜を使ったクッキングは好評で、子どもたち以上に保護者の方々が楽しんでるようです。

地元の農家の知識が、当園の子育て支援活動を介して、食育という形で地元の子どもたちに還元されていることに、やりがいを感じます。

いずれのイベントにおいても、初めて参加される親子、常連さん、ともに楽しみながら信頼関係を築いてもらい、保育教諭に相談しやすい環境作りを力を入れています。

(堺市 M・S)

誰が食べても おいしい給食

～和食で予防アレルギー～ ③

栄養士 渡辺 雅美

Profile

栄養士として保育園に長年勤務、その経験をもとに1996年から保育園の給食に和食を導入する活動を開始。佐藤小児科医院長・小児科専門医の佐藤医師とともに、アトピー性皮膚炎の子どもたちの食事の指導や、出前料理教室を主宰。乳幼児のアトピー性皮膚炎の改善のため定期的に講演活動を行う。

- 広島大学付属病院勤務
- 著書「アトピーっ子も安心の毎日ごはん」2011年8月出版 他多数
- 保育園での和食給食推進・指導・講演活動
- 大阪府堺市、佐藤小児科栄養相談。出張料理教室 乳幼児のアトピー性皮膚炎の改善
- NPO食の安全と安心を科学する会 理事

今回は、大阪府のT保育園の12月の献立表（抜粋）を紹介します。

ごはん

主食は月曜日から土曜日まで五分づきご飯を出しています。五分づき飯というと、なにか特別なものなのか、子どもには硬くて食べられないのでは？と質問をよく受けます。

味覚が育つ大切な乳幼児期に、水量や浸水時間などを配慮しながらお米のおいしさを伝えることを、給食の中で最も大切に考えています。そうすることによって

て自然に色々なおかずと一緒に食べることが身についてもらうことができます。

「今日の保育園のごはん、甘いなあ。家のとちやうなく、なんでやろ？」との子どもたちの声に、「それもそのはず、今日はこれとこれの新米でした！」と先生が答えたりしています。

おかず

魚類は週2回、他の主菜は肉類、大豆製品をバランス良く取り入れています。

副菜では、酢の物は週1回は必ず入れています。保育園での給食に関するアン

ケートで「保育園で一番好きなメニューは何ですか？」という問いに、「魚」という答えが多かったのに驚きました。

魚メニューのナンバー1は「さんまの梅煮」です。圧力鍋を使用して30分、骨もやわらかく丸ごと食べられて大好評！「あじのフライ」を置いているお皿の横には、いつも「あじの骨せんべい」が添えられています。

手間ひまかけた分、栄養的にも優れているだけだけでなく、「もったいない」と命をいただいていることへの感謝の気持ちも感じとれるように成長してくれています。

★朝のおやつ（乳児）

- 月…いりこ、ふかし芋
- 火…いりこ、きなこクッキー
- 水…いりこ、バナナ
- 木…いりこ、さつまいもクッキー
- 金…いりこ、焼き芋
- 土…いりこ、ふかし芋



おやつ

おやつは軽い食事とみなし、おにぎり、焼き芋、団子、米粉で作った蒸しパンなど、腹持ちの良いもので、お母さんが迎えに来られる時間まで機嫌よく遊んでいてもらえるようにつとめています。

飲み物

ほうじ茶を出しています。外で遊んで喉が乾いたら、一定の所にほうじ茶を用意してあり、子どもたちの意思で座って自由に飲める、ほっこりとする場所になっています。

— 次回へつづく —

12月の献立表

	月	火	水	木	金	土
お昼ごはん	鶏肉のねぎ味噌焼き 切干大根の土佐酢和えのっぺい汁	さんまの梅煮 じゃが芋と人参の金平豆腐の味噌汁	豆腐つくね焼き ほうれん草のごま和え 南瓜の味噌汁	鶏とごぼうの炊き込みごはん 鮭の幽庵焼き ひじきと干しいたけの煮物 えのきの味噌汁	高野豆腐の磯辺揚げ 春雨のごま酢和え 豚汁	親子丼 白菜とえのきのおかか 和え わかめの味噌汁
おやつ	梅、かつおおにぎり	みたらし団子	大学芋	小松菜蒸しパン	きつねおにぎり	さつまいもクッキー
お昼ごはん	じゃが芋と豚肉の炒め煮 ブロッコリーのごま和え ひじきの味噌汁	さばの味噌つけ焼き 炒り豆腐 じゃが芋のすまし汁	金平丼 もやしと高野豆腐の甘酢和え 大根の味噌汁	あじフライ 筑前煮 白菜の味噌汁	おでん 小松菜の納豆和え わかめの味噌汁	和風やきめし きゃべつの磯辺和え 豆腐の味噌汁
おやつ	青菜、じゃこおにぎり	五平餅	米粉りんごケーキ	さつまいも団子	豆腐ドーナツ	焼き芋
お昼ごはん	高野豆腐とひき肉の煮物 ほうれん草のおかか和え しめじの味噌汁	いわしのごま味噌からめ 南瓜の昆布煮 けんちん汁	和風カレー きゃべつのごま酢和え うるめいわし	さんまのかば焼き 小松菜の高野粉煮 さつまいもの味噌汁	鶏肉と野菜の甘酢煮 切干大根と大豆の煮物 ごぼうの味噌汁	五目うどん 厚揚げと白菜の煮物 じゃが芋の味噌汁
おやつ	ゆかり、のりおにぎり	黒ごま団子	黒糖蒸しパン	きなこもち	おからケーキ	生姜じゃこおにぎり

★主食は毎日五分づき米です。

★お昼の給食は毎日季節の果物とぬか漬けがつきます。だし昆布の再利用として昆布煮がつく時があります。

★味噌汁はメインの他に、玉ねぎ、人参、油揚げ、ねぎが入ります。

★おやつには、いりこ、炒り大豆がつきます。

保育の工夫―現場を訪ねて―

自然の中でいきいき・のびのび・たくましく

和泉市 横山きのみ保育園

認定こども園横山きのみ保育園は、和泉市南部横山地域にあり、自然に囲まれた環境の中で四季の移り変わりを体で感じ、自然から多くの事を学ぶ体験・体得保育を行っています。近所には「ヤッホーの山」や「トトロの森」など、子どもたちが名付けた名所が各所にあります。

この時期、子どもたちが散歩に出かけると、必ずみかん山に立ち寄り、みかんを食べてから帰ってきます。行きたびに、変化するみかんの色に感動し、酸っぱかった味も段々甘くおいしくなるのを実感するそうです。それと同時に吹く風や香り、周りの景色が季節によって変わっていくのを五



感で感じます。

園の隣には道の駅があり、地元で栽培された旬の野菜が販売されています。年長児は毎朝、園長とその日の

食材を買いに行きます。品定めしたり、道の駅で出会う農家の人や、店のおばさんとの会話も楽しみの一つ。

また、地域には幅広い分野で活躍されている方が多く、絵本の読み聞かせ、野菜の栽培、梅干作りや味噌の仕込みなどを教えに来てくださるそうです。

横尾中学校区では、保小・中学校の先生方が、毎月一回集まり、情報の交換や共有を行います。マラソン大会の応援、田植えや稲刈りなど、この会議で地域

え、四季の変化が感じられる立地条件を最大に生かした保育、教育を行っておられ、頑張る力の湧いてくる温かい雰囲気のある保育園でした。

(岸和田市 O・F)

編集後記

日々の保育に追われ、気がつけばもう師走です。年の初めに立てた目標は達成できましたか？あと1カ月もあります。後悔しないように頑張らしましょう。

地域とともに ふれあい大切に

開園11年 地域との交流の深まりで相乗効果

東大阪市 本庄保育園

本庄保育園は開園から11年。今では地域の中にずいぶん馴染み、色んな活動や交流が増えてきています。

まず、近隣の老人福祉施設には敬老会やクリスマスマ스에呼んでいただき、高齢者の方々に歌やダンス、剣玉に組み立て体操などを披露しています。

また、府立高校の保育コースの学生が、3年生は夏に2日間実習、2年生は冬に乳児クラスと平日交流しています。たくさんの子生さんが来られるので、子どもたちは一対一でふれあってもらえて満足できる半日です。

地元の中学生も職業体験として、園で2〜3日間実習します。数年前から卒園児が職業体験に来てくれるようになりました。保育園

者の方々に歌やダンス、剣玉に組み立て体操などを披露しています。

また、府立高校の保育コースの学生が、3年生は夏に2日間実習、2年生は冬に乳児クラスと平日交流しています。たくさんの子生さんが来られるので、子どもたちは一対一でふれあってもらえて満足できる半日です。

地元の中学生も職業体験として、園で2〜3日間実習します。数年前から卒園児が職業体験に来てくれるようになりました。保育園

設立からそれだけの月日が経ったのだと感慨深く感じます。

中学生たちも、幼い頃に通った保育園のことを懐かしく楽しかった場所として覚えてくれており、体験場所に選んでくれることがうれしいです。

今年11月に隣の小学校との交流をもちました。総合学習の一環で、2年生が企画してくれるお店やゲーム屋さん、2年生と5歳児がペアになってお店を回す予定で、とても楽しみにしている5歳児です。

今年11月に隣の小学校との交流をもちました。総合学習の一環で、2年生が企画してくれるお店やゲーム屋さん、2年生と5歳児がペアになってお店を回す予定で、とても楽しみにしている5歳児です。



2年前からは、障がい者活動センターの方が「クラブボランティア」として園児のためにカードやかるたを作って届けてくださいます。

納品日には園児が障がい者の方にお礼の気持ちを込めて、歌を披露したり一緒に体操をします。

そして、今年から園に高齢者の方に気軽に足を運んでもらえるように、月に1回の「地域開放デー」を開催しています。子どもとふれあい、一緒に給食(予約制)を食べます。

さまざまな団体、世代との交流やふれあいがありませんが、いずれも双方にとって有益なことに間違いありません。地域の方が気軽に声をかけてくださることは本当にありがたいことです。

(東大阪市 S・H)

何かと慌ただしい年の瀬ですが、体にはくれぐれも気をつけて、心身ともに健やかに新年を迎えられますように。本年も色々ご協力いただき有難うございました。来年もよろしくお願いたします。